

学校運営協議会機能を有する開かれた学校づくり協議会 検証アンケートの結果

本市では全市立小中学校に学校運営協議会機能を有する「開かれた学校づくり協議会」を令和7年度から全校に設置し、学校・家庭・地域で学校運営を協働する仕組みを強化するとともに、地域学校協働活動の活性化を図っています。

このたび、開かれた学校づくり協議会の主体性に着目して、従来の開かれた学校づくり協議会（令和6年度）と比較して変容があったかの検証アンケートを実施しましたので、結果を下記の通り報告します。

記

1 検証アンケートの内容

(1) 対象者 各校 開かれた学校づくり協議会委員

(2) 実施時期及び回答者数

令和6年度：10月上旬～10月31日 回答者数：72名

令和7年度：10月中旬～11月14日 回答者数：165名

(3) アンケート項目

回答項目は、【**そう思う／ややそう思う／ややそう思わない／思わない**】としている。

- ① 協議会の中での議論は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある。
- ② 学校の成果や悩みは、協議会委員の中で共有されている。
- ③ 教員と気軽に話したり、課題を共有したりする機会がある。
- ④ 協議会では、子ども達が地域で育つ安定した環境作りや、地域の愛着醸成につながる協議や活動がすすめられている。
- ⑤ 協議会の運営は、継続して議論ができる体制になっている。※
- ⑥ 学校の案を承認するだけでなく、よりよい学校運営のために建設的に議論している。

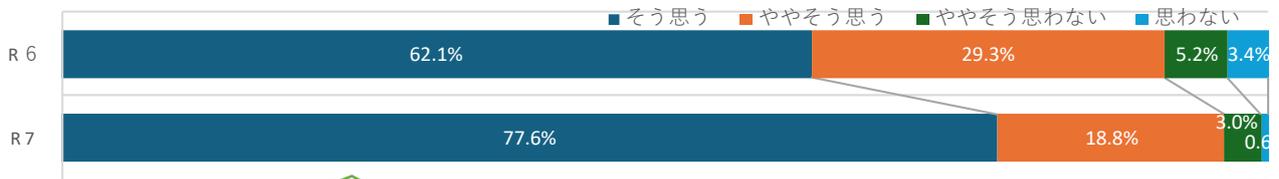
※

※⑤⑥については、学校運営協議会機能に関する質問であるためR7のみ。

その他、開かれた学校づくり協議会の運営についてのご意見（自由記述）

2 全項目の結果及び自由記述（概要）

①協議会の中での議論は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある。



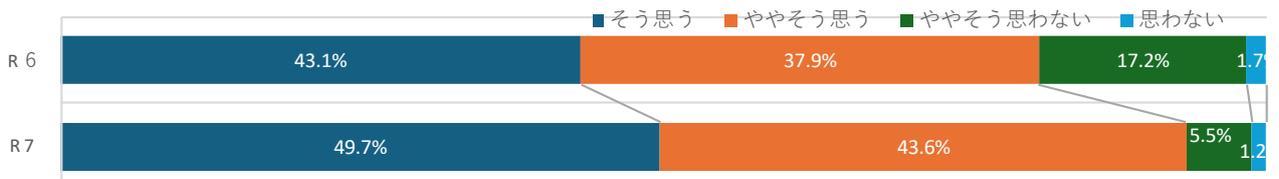
◎多様な委員が学校という共通テーマに取り組むことで、各々が新たな気づきを得られる貴重な場になっている。

◎多角的な視点から自由に意見が提起されており、発展的な展開が期待できる。

▲1回の時間が短いと深い議論ができず、意思決定が曖昧に終わることがある。

▲具体的な目標明示がないと、実効性が課題になる。

②学校の成果や悩みは、協議会委員の中で共有されている。

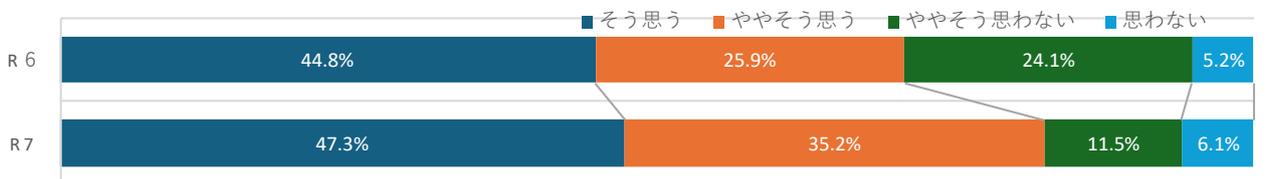


◎学校の情報発信や委員間の共有により、学校の目標や課題が明確に議論される場が設けられ、地域と学校間の理解が深まる。

◎お互いの課題を知ることで、新しい提案へつながる場となっている。

▲学校が抱えている問題の全体像が不明確で、情報開示が不十分であると議論が曖昧になる。

③教員と気軽に話したり、課題を共有したりする機会がある。

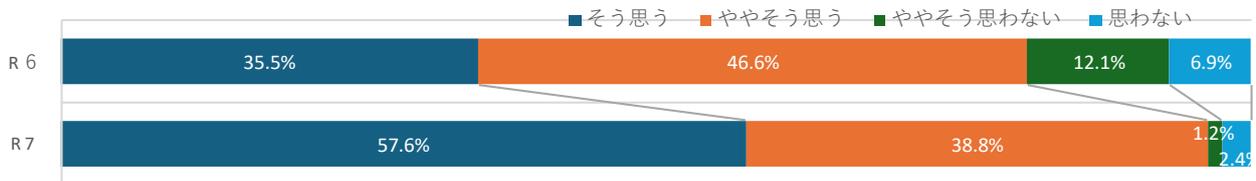


◎教員が実際の授業や抱える課題を率直に共有し、協議会内で意見交換が活発になされた。

◎校長や副校長の調整により、教員が話しやすい空間が確保されている。

▲一部の教員は協議会に参加できていない。

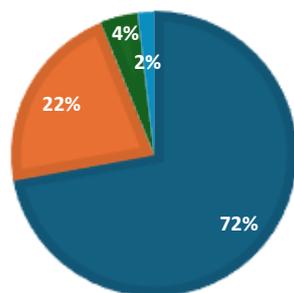
④子ども達が地域で育つ安定した環境作りや、地域の愛着醸成につながる協議や活動がすすめられている。



- ◎生徒会の生徒や若い卒業生の参加により、現役生徒の直接的な声が聞ける貴重な機会が増えている。
- ◎幼保小中連携を推進することで、より地域の中で連なった包括的な議論が期待できる。
- ◎地域との連携強化により、あそべえや学童の運営にも活かされるなど、実践的な成果が生まれている。
- ◎福祉施設との交流やボランティア受け入れなど、地域課題を考え合う良い機会になっている。

⑤協議会の運営は、継続して議論ができる体制になっている。（R7のみ）

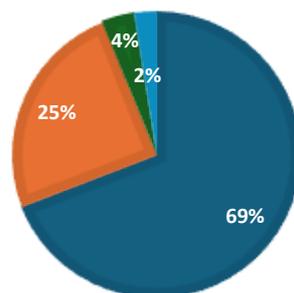
■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ 思わない



- ◎実務的なサポートがあり、情報共有や議事・運営の仕組みが整備され、会議の継続がしやすい環境となっている。
- ◎初年度のため手探りでのスタートであったが少しずつ整ってきたように感じる。
- ▲ファシリテーターが不足しており、人任せになりやすい。
- ▲会長などの中心メンバーの負担が大きくなると持続可能性に問題がある。

⑥学校の案を承認するだけでなく、よりよい学校運営のために建設的に議論している。（R7のみ）

■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ 思わない



- ◎学校運営の内容や課題、地域の結びつきを知ることで、新しい提案にもつながる場になると感じる。
- ◎多角的な視点から課題を共有し、建設的な議論を通じて地域との連携強化や改善策が進められている。
- ▲協議会の成果や中長期的な目標が曖昧で、議論が定性的・主観的に留まっている。

3 結果の分析

①～④すべての項目で「そう思う・ややそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が令和6年から令和7年度にかけて顕著に上がった。

⑤及び⑥は、令和7年度から機能を強化した部分について協議会の運営が委員主体となり、継続して議論ができる体制になっているか、また、学校運営のパートナーとして建設的に議論しているかを調査している。ともに全体で94%が「そう思う・ややそう思う」と肯定的な回答である。

①協議会内の忌憚なく意見を出し合える雰囲気については、多様な委員が子どもの育ちを軸として、学校と地域の情報共有が活発に行われた。委員の多様な視点が交わることで、地域で育つ子どもの姿や地域を取り巻く状況の把握がより進んだ。(肯定的な回答：5ポイント上昇)

②学校の成果・悩みの共有は、学校運営の基本方針や課題が明確に議論され、地域と学校の相互理解が深まってきたと言える。(肯定的な回答：12.3ポイント上昇)

③教員と気軽に話したり学校の課題を共有したりしているかについては、協議会において積極的に学校行事や児童・生徒との交流の機会を設ける取組もあり、教員との課題共有の機会が増えた。校長も委員の一人となり、対等な立場で話しやすい環境が組織されたことも変化の要因といえる。(肯定的な回答：11.8ポイント上昇)

④子ども達が地域で育つ安定した環境作りや、地域の愛着醸成につながる協議や活動については、あそべえや青少協が関わる地域住民のイベント、近隣施設やボランティアとの交流、幼保小中の連携など、地域とのつながりを再確認して、実際に連携が図られてきた。(肯定的な回答：14.3ポイント上昇)

自由意見からは、時間不足により議論が深まらなかったり、ファシリテーターの不足、会長や副会長など一部の委員に負担が偏ったりすることなどが課題として挙げられた。

今後は、それぞれの協議会で時間や開催回数の最適化を図りさらに質の高い協議を実現することや、ファシリテーター育成のための研修を行うことなど、開かれた学校づくり協議会において建設的な議論が継続できるよう、各地域の実態に応じて内容を充実させていく必要がある。